

家族、友人、知人などさまざまな生きづらさを抱えた方々の悩み、現状を理解し、共に生きる福祉力を高めます。

出題分野と例題

2級は、障害の理解、高齢者の理解、コミュニケーション力、福祉の理念の4分野の応用と母子・児童、医療福祉一般の2分野より構成されています。

1 障害の理解

問 高次脳機能障害に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

【選択肢】

- ① 高次脳機能障害の症状である遂行機能障害では、頻繁に怒鳴り散らすなど、暴力的で子どもじみた行動を起こしたり、急に泣き出したと思ったら、急に怒り出して、周りを困惑させる行動がみられる。
- ② 高次脳機能障害は、先天性の脳機能障害である。
- ③ 失語、注意障害は、高次脳機能障害の代表的な症状である。
- ④ 高次脳機能障害では、片側の空間の刺激・注意に対して無頓着になる半側空間無視の症状は現れない。

2 高齢者の理解

問 認知症に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

【選択肢】

- ① アルツハイマー型認知症では、幻覚・妄想の症状はみられない。
- ② 血管性認知症では、記憶障害を伴うことはない。
- ③ アルツハイマー型認知症は、女性に多くみられる。
- ④ レビー小体認知症とは、初老期認知症の代表的な疾患の1つであり、原因不明の脳萎縮性疾患である。

3 母子・児童

問 児童虐待に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

【選択肢】

- ① 虐待をしている親からの相談を受け知り得た情報であっても、児童虐待の通告に関しては、守秘義務違反は問われない。
- ② 児童虐待は、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待の3種類である。
- ③ 全国の児童相談所での児童虐待に関する相談対応件数は、児童虐待防止法施行前の平成11年度に比べ、平成24年度は3倍に増加している。
- ④ 種類別、虐待者別、虐待を受けた子どもの年齢構成別割合を見ると一番多いのは、身体的虐待、実父、小学生となっている。

4 コミュニケーション力

問 自己覚知に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

【選択肢】

- ① 援助者の「自己覚知」とは、対象者の性格や特性を自身の観察力により見抜くことである。
- ② 「自殺したい」という相手の言動を無条件に肯定することは「受容」である。
- ③ 個別化とは、援助内容や制度に個々のニーズを適合させることである。
- ④ 守秘義務には1対1の対象者と援助職間の関係において保持されるものと、関係機関等による援助者グループ対個人(対象者)との集団守秘義務とがある。

5 福祉の理念

問 虐待に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

【選択肢】

- ① 身体拘束・行動制限は身体的虐待であり、いかなる場合においても認められない。
- ② 身体拘束による弊害は、拘束される本人や家族にとっての精神的苦痛や人権侵害としての精神的弊害と、関節の拘縮、筋力の低下、感染症への抵抗力の低下等の身体的弊害の2つのみである。
- ③ 施設職員である後輩から「利用者を思わず殴ってしまった」と告白され、後日利用者の頬に不自然なアザを見つけたけれども、現場を目撃したわけではなく、本人も反省していることから上司への報告は控え、先輩職員として指導を徹底していくことにした。
- ④ 虐待に関する通報に関しては、守秘義務に関する法律の規定の適用は排除され、通告者は解雇等の不利益な取扱いを受けない。

6 医療福祉一般

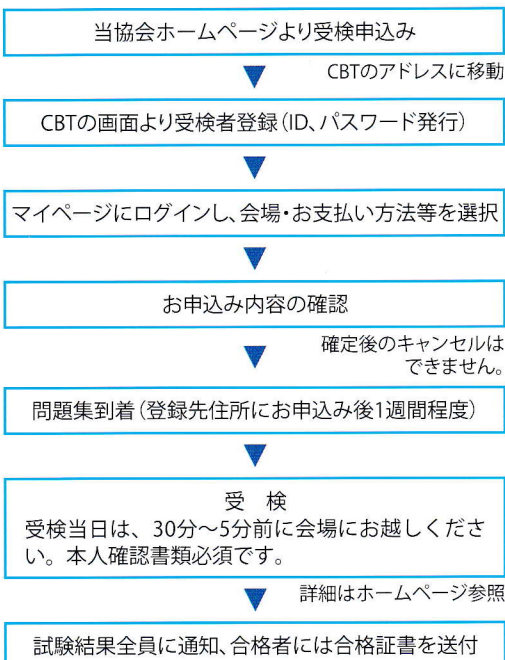
問 感染症に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

【選択肢】

- ① 重症急性呼吸器症候群(SARS)は2類感染症であるが、有効な治療法は確立されていない。
- ② 結核菌感染の有無を調べるには、鼻咽喉頭粘液の採取による検査が有効である。
- ③ ノロウイルスは、夏に多く発生し、主な症状は高熱や頭痛、全身倦怠、筋肉痛である。
- ④ 疥癬(かいせん)は、ヘルペスウイルスによる感染症である。

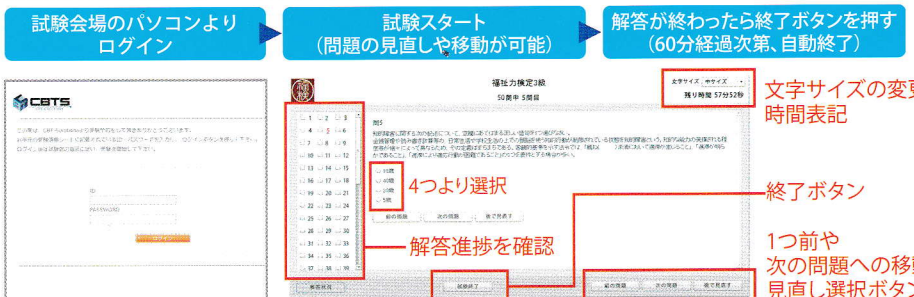
正解：1：③、2：③、3：①、4：④、5：④、6：① 解説・詳細はホームページをご覧ください。

申込手順と試験の流れ



試験内容

出題内容	①障害の理解 ②高齢者の理解 ③コミュニケーション力 ④福祉の理念 ⑤母子・児童 ⑥医療福祉一般 等を中心とした福祉に関する問題。当協会発刊問題集より出題(表面参照)
試験方法	4肢択一のCBT方式
問題数・時間	100問・60分
受検料(税込)	2級：19,800円(受検料 16,200円、問題集 3,240円、問題集送料 360円) 2・3級併願：24,120円 ※2・3級の単願受検時より5,760円割引となります。 (受検料 18,360円、2級問題集 3,240円、3級問題集 2,160円、問題集送料 360円)
合格基準	原則として、総得点が満点の70%で合格。



詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.fukken.or.jp>

個人情報は本受検に関する本人確認や連絡等の目的にのみ使用し、管理いたします。